

児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2021年 2月 6日

事業所名 こどもサポート教室「きりり」新鈴鹿校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	2	個々の活動に合わせスペースを有効活用できるようにしている。	安全なパーティションを購入し、個々のスペースを確保した。
	②	職員の配置数は適切である	4		児童指導員 2 名、保育士 1 名 常勤	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4			
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		感染症対策を徹底し、毎日の清掃や消毒、換気、検温等をおこなっている。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4			
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		年に 1 回アンケートを実施し、結果を教室内に掲示している。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4		第三者による外部評価は必要であると考える。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		社内研修や、市や近隣で行われる研修に全員で参加している。	
適切な支援	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4			
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		社内で統一したアセスメントシートで定期的にあセスメントを行っている。	

の提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4		
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4		保護者の方とモニタリングを行い、定期的に支援計画を見直している。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	4		
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		職員間で情報共有をしている。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		同上
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		毎回支援記録を取り、見直しをすることでより良い支援に繋がっている。
関係機関や保護者との連携	⑳	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4		
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		児童発達管理責任者が出席している。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4		保護者の方の要望や同意のうえで、連携をとっている。
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			
	㉔	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		必要に応じ、就学前の引継ぎ会議に参加し、学校と連携をはかり情報共有している。

	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4			同上
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4			
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		4		普通の園生活等がベースなお子さんがほとんどであり、ここでは個別の療育支援を中心に活動している。
	②⑨	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4			
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		毎回支援終了後に保護者の方と支援内容や様子等話をする時間を設けている。	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている		4		保護者の方へ適切な助言は心掛けているが、ペアレントトレーニング等の支援は行っていない。
保護者への説明責任等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		契約時に保護者さんへ丁寧に説明している。	
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4			
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		個別支援計画の見直し時期やモニタリング時、保護者さんのニーズがあるときには随時児発管が対応している。	
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4		今年度はコロナウイルス対応のため、イベント等は自粛している。
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4			
	③⑰	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		ブログやインスタ、ライン等で様子やお知らせを発信している。	
	③⑱	個人情報の取扱いに十分注意している	4		鍵付きロッカーに保管するなど取扱いには十分注意を払っている。	
	③⑲	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			

	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		4		事業所のスペースや職員数などから、招待して行事をするということは難しい。また今年度はコロナウイルス対応のためイベントは自粛している。
非常時等の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		各種マニュアルを策定し、感染症予防や緊急時の避難場所などは掲示している。	
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		月1回、様々な災害を想定し、避難訓練を実施している。	
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4		契約時に聞き取っている。	
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				契約時に聞き取りはするが、食事提供は行っていない。
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		事例があった場合は報告書を作成し、職員全員で今後の対応や対策をたてている。	
	④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		事業所内研修を行っているほか、その他の研修にも参加している。	
	④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4			必要に応じ保護者の方に説明し、個別支援計画に記載する。現在該当者はいなし。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2021年 2月 6日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」新鈴鹿校 保護者等数（児童数）：9 回収数：6 割合：67%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	66.7%	33.3%			・やや狭い ・少し狭く感じるが子供にとっては安心できるのかも	→その時間の利用人数や活動内容により、スペースを有効に活用できる工夫をしていく。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	100%				・充実している	
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	66.7%	16.7%		16.7%	・駐車場が不便	→天候の悪いときなどの送迎時、小さいお子さんのおられる方を優先し、玄関前の駐車場を活用したい。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	83.3%	16.7%			・遊び方によっては少し狭い感じ	→その時間の利用人数や活動内容により、スペースを有効に活用できる工夫をしていく。
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	100%				・細かいところまで見て計画している	
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	100%					
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	100%					
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	100%				・その子に合ったように工夫されている ・毎回好きな遊び新しい遊びをおり交ぜている	
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	50%	16.7%		33.3%	・コロナの関係か、経験をまだしていない	→個別支援を中心にしています。また今年度はコロナウイルス対応の為、イベントは自粛している。
保護	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100%					

者への説明等	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	100%					
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	100%				・その都度相談に乗ってもらい、母親としての自己肯定感をあげてもらっている	
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	100%				・同上	
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	100%				・同上	
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	33.3%	33.3%		33.3%	・参加していない	→個別支援が中心あり、保護者さん同士の関りが少ないのが現状。またコロナウイルス対応の為にイベントは自粛している。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	100%				・幼稚園で困ったことがあった際相談に乗ってもらっている	
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	100%				・毎回丁寧に子どもの様子を伝えてもらっている	
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	83.3%			16.7%	・見ていない	→不定期ではあるが、ブログやインスタで活動の様子をあげることや、ラインでお知らせを配信するなどしている。
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	100%					
	非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	100%				
㉑		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	83.3%			16.7%		→月1回、様々な災害を想定した避難訓練を実施している。
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	100%				・いつも楽しみにしている「今日楽しかった、また行こうね」と子どもが言う	
	㉓	事業所の支援に満足しているか	100%					

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。